

1. 単元について

対象学年	高等学校 第1学年
学習指導要領	聞くこと(ア) 話すこと(ウ)
単元名	Lesson 9 A Free Pizza (全2時間) Daily Oral Communication 池田書店
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えることを恐れず自分の考えなどを話している。 ・うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度) ・伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。 ・場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさを話することができる。 (表現の能力) ・聞いた内容について正しく理解することができる。 ・質問、依頼、指示などに対して、適切に応じることができる。 (理解の能力) ・電話での会話に必要な慣用表現を表現を知っている。 (言語や文化についての知識・理解)
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な電話での対応を英語で行えるようにする。 (電話での会話は相手の顔色や様子といった情報がないため、普段の会話以上に難易度が高い。よって落ちついて対応できるためにも通常の会話表現について確実に定着させていきたい。) ・導入のストーリーから吸収できる表現をできる限り自分のものとして定着させることができるようにする。 ・これまでに習得してきた言語材料を活かし、今回与えられた状況を自分の言葉で表現するチャンスを与えることにより、既習事項が常に生きて活用できる状態にする。(毎時の指導方針) ・英語学習環境を整えるため活動においては原則として"No Japanese, No silence."の徹底をはかる。 ・「模倣」「操作」「創造」の自然な言語習得の流れを授業の中で活かして指導する。 ・本来のコミュニケーション活動は机に座ったままで行われることは少ない。よってペアプラクティスにおいても起立したまま互いに向かい合い、目を

	<p>合わせる中で練習させていくように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味のないオウム返しのだけの演習では、生徒を長時間集中させることは難しい。よって、授業の中で行う活動には、できるだけ「問題解決」や相手の発話によって対応を変えなければならないような「思考」、「操作」が含まれるよう配慮する。 ・「授業は楽しくなくてはならない」本来言葉習得は基本的な本能に根ざしており、コミュニケーションの成立は喜びをもたらす。特にオーラルの授業は静かであってはならない。教師自らが元気で明るく振る舞い、生徒にとって楽しい授業として受け止めることができるような環境づくりに配慮する。
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ delivery service の注文カード（第1時の演習で活用） ・ 題材となる母音について、発音方法を視覚的に捉えることができるようにするためのカード（第2時の Let's Pronounce. で使用）
英語指導全般についての留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読める英語は聞き取れるとは限らないが、自分が言える英語は必ず聞ける。」これは英語の定着の度合いが、情報を収集するための「読む技能」よりも自分が自然に発話するための「話す技能」の方が極めて深く根付いているためであると考えられる。このため、「読むための教材」、「リスニング教材」で活用される題材を、4技能の相関性の中でも特に自分が主体的に投げかける「話す技能」の段階にまで熟させ定着させていきたい。 ・ より多くの知識を与えていくことよりも、これまでに蓄積した知識を実際の場で活用できるようにするための演習活動を重視してオーラルコミュニケーションの授業を展開してきた。既習事項をさまざまな別の題材において何度も自分の意志により活用していこうとする姿勢を身につけさせるため、warm-up 時の自由会話やストーリーの自分の言葉によるリプロダクションを常々実施するように努めていかなければならないと考える。
備考欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当の2時間分を ALT とのチームティーチングとして実施することが望ましいが、現実には困難な場合が多いので、今回は配当時間2時間中、最初の1時間をチームティーチングとし、他の1時間をJTE単独の授業として企画した。

2. 聞くこと・話すことを中心とした学習についての評価規準

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化につ いての知識・理解
聞 く こ と の 評 価 規 準	<p>「聞くこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。</p> <p>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。</p>		<p>比較的平易な英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを正確に理解することができる。</p> <p>比較的平易な英語を、場面や目的に応じて適切に聞いたり、反応することができる。</p>	<p>言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p> <p>日常生活の身近な話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。</p>
話 す こ と の 評 価 規 準	<p>「話すこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。</p> <p>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。</p>	<p>比較的平易な英語を用いて、情報や考えなどを正しく話すことができる。</p> <p>比較的平易な英語を用いて、場面や目的に応じて適切に話すことができる。</p>		<p>言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p> <p>日常生活の身近な話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。</p>
単 元 の 評 価 規 準	<p>言語活動への取り組み 間違えることを恐れず自分の考えなどを話している。</p> <p>コミュニケーションの継続 うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。</p>	<p>正確な対話 伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。</p> <p>適切な対話 場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさで話すことができる。</p>	<p>正確な聞き取り 聞いた内容について正しく理解することができる。</p> <p>適切な聞き取り 質問、依頼、指示などに対して、適切に応じることができる。</p>	<p>言語についての知識 電話での会話に必要な慣用表現を表現を知っている。</p> <p>文化についての理解 *****</p>

3 . 単位時間における具体の評価規準

ア コミュニケーション への関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化について の知識・理解
<p>与えられた課題解決のため、相手から情報を得るためのコミュニケーション活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>これまでに学んだ表現を活用し、積極的に自分の思いを相手に伝えようとしている。</p>	<p>新出表現とともに、これまでに既習の知識を積極的に活用し、聞き手が分かりやすいように情報伝達ができる。</p> <p>仲間と協力してスキットを用いた対話活動、情報伝達演習において、分かりやすくメッセージを伝えることができる。</p>	<p>英語による情報を日本語を介さず直接理解することができる。</p> <p>与えられた英語による情報を速やかに処理し、次の対応を準備することができる。</p>	<p>電話における慣用表現を身に付け、必要な場面に応じて適切に活用している。</p> <p>相手に伝えたい内容をより分かりやすく、かつ具体的に伝えるための表現方法が身に付いている。</p>

4. 指導と評価の計画（全2時間）

時	ねらい	学習活動	評価基準				評価方法	指導・援助 配慮事項
			ア	イ	ウ	エ		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文を聞き、内容を論理的にまとめて発表することができる。 ・ 英語を用いて電話での基礎的表現方法を身につける。 ・ 英語で出前を注文することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT が提示する英文を聞き、後の Q&A に対応する。 ・ 演習 A をもちいて論理的に場面を具体化する。 ・ 電話をかける側と受ける側の両場面に ついてスキットを用いた演習活動を行う。 ・ 基礎スキットを用いた演習。 ・ 応用（オリジナル）伝達ゲームを通じて相手の指示を聞き取り、それに合わせて即座に反応できるように演習を行う。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ Q&A における活動の観察による ・ 演習活動の観察による ・ 演習活動の観察による 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の内容が実感が込もって伝わるようにイントネーション等に配慮して発音する。 ・ 内容理解の補助として場面を描いた絵を同時に提示する。 ・ 単におうむ返しに暗記するためだけの反復練習に留めず、相手が在宅の場合と不在の場合に分けて状況に応じて対応できるような演習活動になるよう配慮する。 ・ 最初のメッセージが机列ごとに正確に受け継がれていくことを確認させる。日本語を介さず英語のみで思考し、正確に情報を伝達していく技術を身につけさせるための活動である。
2	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の強化と応用 ・ ストーリーの再構成 模倣から創作への移行 ・ 電話による出前についてのオリジナルスキット制作 ・ 発表 ・ 英語による料理の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題のストーリーを既習事項を用いて自分の言葉で表現する。 ・ 電話と出前の表現を組み合わせる各ペアで作成したオリジナルスキットを発表し・相互に学び合う。 ・ 料理の調理方法を示す基礎的な英単語を学び、自分の好きな料理の作り方を英語でまとめ発表する。他の生徒はその料理名を推測する。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ 単なる英文の暗記に留めず、指定の情報を既習の用法を用いて自分の言葉で相手に伝達していく。 ・ 演習活動の観察による ・ 演習活動の観察による 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の生徒が集中して聞くことができるように発表のみに留めず、聞き手が料理名を当てるゲームとして設定する。

5-1. 単位時間の授業展開例（第1時間目） ALT, JTE によるティームティーチング

(1) 本時のねらい ・基礎的な電話での会話、電話による宅配依頼の表現方法を身に付けることができる。
・基礎的な表現方法を活用し、日本語を介することなく英語のみによる思考活動ができる。

(2) 本時の位置 1 / 2 時

(3) 展開案

過程	学習活動	評価についての詳細・留意点 (内容と方法)	指導・援助
warm-up (5 min.)	<p>Greeting</p> <p>ALT の指示を聞く。 Warm-up Activity "When is your birthday?" "My birthday is _____."</p> <p>ALT の指示に従い、全員起立し、生年月日の順に生徒は一列に並ぶ。 この活動はすべて英語のみにより質問を繰り返しながら自分の位置を決定するための情報を集め、並びかわるものである。</p> <p>確認：整列が完成した後、列の最初の者から英語で自分の誕生日を言い、他の全員で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に情報を求めようとする姿勢が感じられるか。 (生徒の活動観察) すべての活動が英語のみにより行われているか。 (生徒の活動の観察) 形式的な確認にとどまらず、英語での思考になっているか。 (正確な順に整列が完成されているか確認) 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶において全体の挨拶とともに数名の生徒に "How are you?" と声をかけながら英語を使う環境作りの準備を進める。 ALT により活動内容の指示。とまどっている生徒があれば "When is your birthday?" と問いかけ、活動を促しながら援助を与える。 この活動は生徒が積極的に言葉を発し、活動しようとする姿勢を身につける準備である。思考を英語に切り替えていくための準備を目的とする。
テーマ スキットの 理解 (7 min.)	<p>テキストを閉じ、ALT による朗読を聞き、内容の概略をつかむ。この間メモを取ることを許可されているが、日本語を通さず英語のまま直接情報を蓄積する訓練とするため、できるだけメモを取らないように努める。</p> <p>リスニングについての Q & A 英語での思考を促進するため、ALT から次々に簡単な英語の質問が浴びせかけられ、即座に完全な英文の形で答えるように努める。</p> <p>なお、客観事項のみならず、生徒の日常生活に触れた質問も生徒の反応により加えられる。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> What did I do last Saturday? Who were there? When did I feel hungry? What did I do then? When did the delivery boy appear? Why was he late? How much did I pay for the pizza in the end? How did I feel? Angry or happy? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> Do you often ask for pizza delivery? What kind of fast food do you like? </div>	<p>評価 ウ -</p> <ul style="list-style-type: none"> 的確に質問の内容を理解しているか。 (生徒からの返答により評価し、不安が感じられるときにはヒントを与えたり、モデルリーディングを繰り返す。) 相手にはっきり理解できる声で答えているか。 (生徒の反応の様子から判断し、声が小さければ、たとえ返答が正しくても意味がなくなってしまうことを指導する。) 返答の内容が的確か。 (生徒の発言より判断) 発音・イントネーションは適切か。 (生徒の様子から判断し、適切な助言を与える。) すべてが英語のみで進行しているか。 (応対の様子から判断する。) 日本語の使用を厳しく禁じる。 	<ul style="list-style-type: none"> テキストの内容を ALT による音声のみで与える。視覚による援助として場面の絵を提示する。 音声としての英語を聞かせるだけやリピート練習のみに留めてはならない。その段階で止めれば生徒は音声に対する集中力を失い、情報が記憶の中に残らない。よって英語を聞いた後には必ず Q & A を含め、内容理解の確認を行う。 質問が聞き取れなかった場合は "Pardon me?" と英語で尋ね、問い返すことを徹底する。 質問を言い返す場合も決して速度を落とすことなく回数を繰り返して理解させるよう配慮する。 ヒントを与えても答えられない場合には他の生徒を指名するが、必ず最初の生徒の最終的な理解を確認するとともに、もう一度、他に新たな質問を後になって投げかけることにより再度発言のチャンスを与え、学習に満足感が得られるように配慮する。

<p>スキット確認 (5 min.)</p>	<p>再度ストーリーを聴き、テキストの空白を埋める。 (テキストの課題)</p> <p>ペアで確認。</p> <p>指名しながら全員で確認。</p> <p>スペリングの点検として指名された生徒は答えを板書する。</p> <p>A Answer the Question 設問を解く。</p> <p>ペアで確認</p> <p>指名しながら全員で確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容を理解しているか。 (机間巡視による) ・全体の内容を理解しながら英単語が入れられているか確認。 (生徒の観察により判断) ・スペリングが正確に書かれているか。 (机間巡視及び生徒によって板書された答の点検による。) ・内容が十分理解されているか。 (生徒の活動を観察) ・集中して課題に向かっているか。 (活動の様子により判断) 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の間にポーズを置き、ストーリーを聞かせる。速度は最初と同じとする。 ・口頭による確認の指示。 ・口頭による確認の後、最終確認として生徒を指名して板書させる。 ・机間を回りながら、生徒の活動を確認する。 ・生徒からの質問に応じる。 ・口頭で確認する。
<p>電話の基礎 (5 min.)</p>	<p>C Let's Speak 電話での会話</p> <p>A: Hello. May I speak to Hiroko? B: Speaking. A: Hi, Hiroko. This is Meg.</p> <p>リピート練習 モデルに従って繰り返し、スキットを覚える。</p> <p>ペアで練習 (実際に相手の名前を使って)</p> <p>机列の前から後方へと2名ずつペアになって会話を送っていく。(ルーピング) 「1-2」 「2-3」 「3-4」最後尾へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スキットが確実に覚えられているか。 (生徒の活動の様子から) ・主体的な活動となっているか。 (生徒の活動の様子から判断) ・ルーピングの途中で戸惑いはないか確認。 (活動状況を観察することによる。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な電話での基本会話を定着させる。ALT と JTE により対話のモデルを示す。(2回) ・2回目にリピートするときにはできるだけテキストを見ず、覚え込むように指示。 ・ペアプラクティス及びルーピングの指示。 ・スキットがうまく再現できない生徒に援助を与える。
<p>応用演習 (7 min.)</p>	<p>応用</p> <p>A: Hello. This is <u>Keiko</u>. May I speak to <u>Hiroko</u>?</p> <p>B: Speaking. A: Hi, <u>Hiroko</u>. This is <u>Meg</u>.</p> <p>B: Sorry, she is not in right now. Would you like to leave a message? A: Yes, please.</p> <p>の場合を含む応用されたスキットを聞く。</p> <p>リピート練習 モデルに従って繰り返し、スキットを覚える。 2度目のリピートではテキストを見ない。</p> <p>ペアで練習。(実際の名前を使って) 意図的に他者(下線部)の名前を使い、の返答が必要な場面も設定する。 電話を受ける側は、相手の問いに従って、を選択して会話を進める。</p> <p>同様にして机列の前から後方へと2名ずつペアになって会話を後方へ送っていく。(ルーピング)</p>	<p>評価 ウ - 、エ -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用のスキットが十分理解されているか。 (生徒の様子・活動から) ・応用のスキットに十分親しみ、定着させることができたか。 (生徒の取り組みの状況観察による。) ・生き生きとスキットを自分の言葉として理解し主体的に取り組んでいるか。 (活動の観察) ・楽しく活動が展開しているか。 (活動の観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容に加え、相手が不在の場合のスキットについて提示し定着させる。 ・ALT と JTE によりスキット応用編を提示する ・相手が在宅か否かの二つの場面、について、相手の示す名前により判断してスキットを展開する。単なるスキットの丸暗記ではなく、相手からの情報を理解して対応するよう指示。 (実際の名前を使用して演習活動を行う。)

<p>(5 min.)</p>	<p>電話での会話</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">A: Hello. Can I speak to Ken? B: Just a second, please. (Hold on, please.) A: Sure.</p> <p>スキットの提示</p> <p>リピート練習 モデルに従って繰り返し、スキットを覚える。</p> <p>ペアでの練習 (実際の名前を使って)</p> <p>机列の前から後方へと2名づつペアになって会話を送っていく。(ルーピング)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して内容理解に取り組んでいるか。(表情・姿勢の観察) ・大きな声で自分の言葉として覚え込もうとする姿勢が感じられるか。(活動の観察より) ・正しい発音・イントネーションで発音されているか。(それぞれの生徒の発音に着目し、観察することによる。) ・新しいスキットに集中し、内容理解に取り組んでいるか。(表情・姿勢の観察による。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話による基礎会話 ALT と JTE によりスキットを提示する。 ・リピート練習の指示・実施 ・ペア練習の指示 ・机間巡視し、発音・イントネーションについて助言を与える。
<p>(7 min.)</p>	<p>B Let's Speak</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">Pissa shop: Hello, (this is Pizza Queen). May I help you? Meg: I 'd like to order a large pizza. Pizza shop: Sure. What would you like to have for toppings? Meg: Mushrooms, green peppers and shrimp.</p> <p>ALT とのスキットの提示</p> <p>リピート練習</p> <p>ペア練習</p> <p>教科書課題 B-2 による演習活動をペアで行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で自分の言葉として覚え込もうとする姿勢が感じられるか。(活動の観察より) ・正しい発音・イントネーションで発音されているか。(それぞれの生徒の発音に着目し、観察することによる。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT と JTE によりスキット「電話でのピザ注文」を提示する。 ・モデルを示し、リピート練習を実施する。 ・机間巡視し、個別に発音・イントネーションについて助言を与える。
<p>総演習 (7 min.)</p>	<p>応用 (オリジナル) ALT とのスキット (電話での出前注文) を聞く。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">G: Hello. This is Gust. May I help you? Meg: I'd like to order (). G: Sure. Anything else? Meg: (), please. G: Certainly. Thank you very much.</p> <p>リピート練習</p> <p>演習 (発展)</p> <p>机列ごとに最初の生徒は指導者より注文すべき内容が記されたカードを受け取る。2番目の生徒が上記スキットの Gust を担当し1番目の生徒が Meg の役割を担当する。引き続き3番目の生徒が Gust、2番目の生徒が Meg と引継ぎ机列の最後尾までつなげる。情報の正確さと速度を競う活動である。</p> <p>確認 最後尾の生徒がそれぞれ受け継がれてきた情報を発表し、正しい情報伝達行われたかを全員で確認する。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">評価 ア-、ウ-</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示されたスキットに理解され、定着させるように十分なじんでいるか。(生徒の表情等の観察より) ・大きな声で自分の言葉として覚え込もうとする姿勢が感じられるか。(活動の観察より) ・正しい発音・イントネーションで発音されているか。(それぞれの生徒の発音に着目し、観察することによる。) ・相手からの情報を正確に受け継ぎ、伝達しているか。(活動の観察・最終の結果発表) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT と JTE により応用スキットを提示する。 ・モデルを示し、リピート練習を実施する。 ・机間巡視し、発音・イントネーションについて助言を与える。 ・注文すべき内容が書かれた異なったカードを机列の数だけ用意し、各列の最初の生徒に渡し、ルールを理解させた上でゲームの開始を指示する。 ・もともとのカードの内容をそれぞれ示し、情報伝達の正確さを全生徒とともに確認する。
<p>まとめ</p>	<p>本時で導入された表現方法を確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容のまとめを行う。
<p>課題の提示 (2 min.)</p>	<p>机列のペアで、電話での注文のスキットを作り演じることができるよう準備してくる。値段、数量等についても情報の中を含め、内容のあるスキットとなるように工夫する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・課題を提示する。

5-2. 単位時間の授業展開例（2時間目）

JTEのみによる授業

(1) 本時のねらい ・基礎的な電話での会話、電話による宅配依頼の表現方法を身に付けることができる。
 ・前時の学習内容の定着を図り、知識の「操作段階」から知識を活用した「創作段階」へと移行するトレーニングができる。

(2) 本時の位置 2 / 2 時

(3) 展開案

過程	学習活動	評価についての詳細・留意点 (内容と方法)	指導・援助
warm-up (4 min.)	Greeting 本時のテーマを含めた3分間の自由会話をスクランブル形式で行う。 How are you?の挨拶から始め、本時のテーマ "What food do you like best?"を含む自由会話を行う。 会話の展開方法は自由であるが"No Japanese, no silence."の厳守と3名以上と会話を交わすことを条件とする。 主に英語の活用を目的とするが、この原則が守られていれば、ジェスチャー等の言語外のコミュニケーション手段を用いてもかまわない。	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に取り組み活動しているか。 (活動の観察) "No Japanese, no silence."が厳守されているか。 (活動の観察・個々の会話の進行に着目) 元気で生き生きした活動となっているか。 (生徒の表情、活動状況の観察) 形式的な会話にとどまらず、英語での思考になっているか。 (活動内容の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶表現と今日のテーマを含めて、これまでに学んだ表現を駆使した3分間の自由会話を行わせる。起立させ自由に動くことを認めることにより、より自然な活動ができる。 会話の相手が見つからない生徒がいなかったり、また活動が消極的になっている生徒はいないか確認し、そうした生徒に配慮した上で活動を促進させる。 英語を使用する時間を十分確保するため必ず2名の会話になっているか確認。3名となっているところがあれば、指導し直す。
前時の確認 (7 min.)	主題のストーリーについて、その内容を自分の言葉でまとめ、相手に伝達する練習を行う。 ペアにて発表・確認・評価 指導者の指示に従い、スクリプトを見ることなく自分の言葉を用いてストーリーの簡単なリプロデュクションを全体の前で行う。	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたメッセージを自分の言葉で伝達することができたか。 (それぞれのペアの活動観察) ストーリーの要点をとらえ、聞き手に理解されるように配慮した説明ができたか。 (発表された内容の検討による。) 	<ul style="list-style-type: none"> ペアで発表し合うことによる準備段階を踏まえ、自信を持って全体の前で発表できるように導く。 ストーリーを3つに区分し、順番に生徒を指名し自分の言葉を使ってリプロデュースさせていく。(2回転) 助言を与えるとともに成果を認め、誉める。
前時課題の確認 (12 min)	各ペアで課題として準備してきた「電話での出前」を依頼する場面のスキットを確認・練習する。 6または8名のグループとし、その中で準備してきたスキットを発表し合う。 各グループより代表ペア1組を選び出す。 各グループより選ばれた6ペアが全員の前でスキットを演じる。 他の生徒はそれぞれのスキットの発表後に出される質問に答える。	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作成してきたスキット発表に生き生きと取り組むことができているか。 (ペアでの練習状況の確認) 評価 ア・、イ・ 各グループで互いに成果を認め評価し合える環境が成立しているか。 (活動・状況の観察) 自分たちの作成したスキットを生き生きと演じ、満足感を得ているか。 (各発表の様子観察) 聞く側に、互いに評価し、認め合う環境ができているか。 (見る姿勢の観察・指導) (各スキットの内容に対する質問の提示とそれに対する反応による。) 	<ul style="list-style-type: none"> 課題のスキットづくりについて最終確認をさせ、グループの中でそれぞれ発表させる。この間、各グループより全員の前で発表するペアを決定させる。 また、各グループの他のメンバーにより、該当のスキットに関する英語の質問を準備させる。 各スキットに続けて、全員に向けてその内容に関連する質問を与えることにより、発表を集中して聞き取ることができている環境を与える。

<p>展開 練習 D (3 min.)</p>	<p>D Let's Pronounce.</p> <p>授業者からのカードによる指導・助言を理解し、モデルに続いてリピートし、発音になれる。</p> <p>助言に従い、自己の発音を矯正していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の母音に着目し正確に発音できるようになったか。 (個々の発音に着目した状況の観察) ・弱く発音する前置詞に注意して音・イントネーションともに自然な発音ができるようになったか。 (個々の発音に着目した状況の観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなカード(発音のモデルをあらかじめ準備しておく)によって示された口のモデルを使って説明を与え、続いて発音のモデルを示し、リピート練習させる。 ・生徒の発音に注目し、不安な部分については助言を与え、繰り返しリピートさせる。
<p>問題 E (7 min.)</p>	<p>E Dictation (テキスト課題)</p> <p>テープにより英語を聴き、テキストの空白部分を完成させる。</p> <p>ペアで確認</p> <p>全体で確認 指名された生徒は自分の書いた英文を板書する。 モデルに従いリピート練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各英文のメッセージを正確に理解することができたか。 (ノート確認) ・スペリングを正しく綴ることができたか。 (ノート確認) ・キーとなる英文に十分親しんでいるか。 (表情・状況の観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自信を持って発言できるように、全員の前で発表させる前にペアでの確認を指示する。 ・各文につき1名ずつ計5名の生徒に自分達の書いた英文を板書するよう指名する。 モデルを示し、リピート練習させる。
<p>問題 F 演習 (7 min.)</p>	<p>F Enjoy and Learn</p> <p>リスニングテスト(テキスト指定問題)</p> <p>ペアで確認</p> <p>全体で確認 指名された生徒は指示された料理法を示す英単語を板書する。</p> <p>料理法についての動詞を確認し、モデルに従ってリピートして覚える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提示される英語に集中し積極的姿勢で取り組んでいるか。 (生徒の観察) ・料理方法に関心を持ち関連語句が定着しているか。 (ノートの確認) 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングにより、それが示す料理について、状況に応じてヒントを出し、援助を与える。 ・生徒を指名し、設問の解答となる調理法を示す英単語を板書させる。他の生徒とともに確認し、定着させるための強化を行う。
<p>(8 min.)</p>	<p>指示に従い、ノートに自分の好きな料理の作り方を英語で説明する。</p> <p>ペアで相談</p> <p>完成、発表準備</p> <p>演習 (テキスト課題を改良) 料理の作り方を説明する生徒の内容をもとに、他の生徒はその料理名を推測する。</p>	<p style="text-align: center;">評価 イ - 、エ -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思い描く料理を適切な表現を用いて他者に説明することができるか。 (ノート確認・活動の観察による。) ・他の生徒の示す説明を理解し、想像力をはたらかせて料理名を当てる活動に意欲的に取り組み、英語で考える習慣の形成に向けて努力できているか。 (生徒の活動観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視をしながら、与えた課題の進行を見守り適切な表現方法がわからず戸惑う生徒がいれば援助を与える。 ・活動の内容を指示し、後に、発表した生徒の用いた表現方法について評価し助言を与える。
<p>整理と まとめ (2 min.)</p>	<p>重要表現について復習・整理を行う。</p> <p>自己評価表の記入・提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が2時間の授業を理解し満足感を得ることができているか。 (まとめと反省の自己評価表による。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本課2時間分のの重要表現の確認とスキット発表等についての評価を行い、本時のまとめとする。 ・評価表を配布し記入の指示を与える。